

H21健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 フォローアップシート

◆達成度に関するアドバイス

・積極的に民間事業体と連携し、当初計画以上の実績を確保するなど、プロジェクトの実施はおおむね順調であると認識しています。
・今後も引き続き、道づくりに関する技術研鑽及び環境への負荷低減に努めるとともに、プロジェクト全体に関する活動実績として、目標やコンセプト、事業規模、実施した成果、プロジェクトの実施により判明した課題などを第3者に対して端的かつポイントを押さえた説明ができるように努めてください。

◆成果に関するアドバイス

・最も旺盛な生長が期待できる道路沿線の立木が必要以上に伐採されていたり、残存する立木の損傷が著しいことが確認されました。間伐の目的を再認識し、こうした行為は森林全体の生産性を低下させ森林所有者の利益を損なっていることを理解して、道づくりや間伐の技術研鑽に努めて下さい。
・林内土壌が流亡した結果、保水機能が低下しており、現状のままでは樹木の生長に必要な栄養分や水分を保持することが困難なため、さらに森林の荒廃が進展する恐れがあります。こうした状況を改善するため、まず間伐を行って林内に光を導入し、1年草本による下層植生を回復、次に表層土の回復状況に応じた在来の枝・葉による土壌回復に努めてください。
・生態系の回復状況(野鳥の鳴き声等を観察)を作業日誌に記録するなど、間伐実施の効果測定にも取り組んで下さい。

◆効率性に関するアドバイス

・化石燃料を使ってわざわざ作業道から遠い場所の木材を生産するよりも、作業道近辺の林地残材を使い切る工夫を重ね、地域社会に貢献出来るようにして下さい。
・プロジェクト内で地域の民間企業と積極的に連携・役割分担することで事業計画を効率的に達成しようとする姿勢は高く評価できます。引き続き飛騨高山森林組合が指導的立場となり、プロジェクト構成員の道づくり等技術向上に努めて下さい。

◆妥当性に関するアドバイス

・県内外から視察者を積極的に受け入れ、モデル事業としての説明責任を発揮している点は評価できます。
・なお効率性を追求した路網配置に配慮していることは十分に伺えますが、現在開設すべき路線かどうか、事業地の緊急度や開設に要するコスト等を勘案して妥当性を見極めながら、優先順位を明確にした道づくりに努めて下さい。

◆発展性に関するアドバイス

・提案型集約化施業に必須である計画的な事業地の確保に向け、担当職員に年間必要集約化面積を明示して進捗管理している点などは特に高く評価できます。
・今後も引き続き、着実な提案型集約化施業の実践を期待しますが、この取り組みの推進を強く求める余り、闇雲な道づくりや木材生産に傾倒することの無いよう注意して下さい。

◆総括に関するアドバイス

・現状を確認すると、30年生を超える林分では、適期の間伐が不足したことによる生長の遅れが認められました。将来、こうした生長が十分に見込めない林分が広がることの無いよう、これを教訓としてプロジェクトを推進して下さい。
・このモデル団地のような標高が高く気温の低い場所では、土壌中の微生物が活動する期間が少ないことから、森林整備による二酸化炭素固定の効果がより発揮されやすいと思慮されます。今後はこうしたことも念頭に置きながらプロジェクトに取り組むことを期待します。

◆フォローアップ委員会の開催状況

平成21年12月28日

日 時： 平成21年11月18日(水)
場 所： 高山市丹生川町曾手地内
参加委員： 三島 喜八郎 岐阜県森林組合連合会 代表理事副会長
湯浅 勲 日吉町森林組合 理事兼参事
篠田 成郎 岐阜大学総合情報メディアセンター 教授
対 象： 飛騨高山・間伐財テクJV
(飛騨高山森林組合／日和田林産(有)／(有)山下林業／エヌエフシイ(株))



プロジェクトの概要説明



作業システムの考え方
について質疑応答



表層土が流亡した間伐施業地



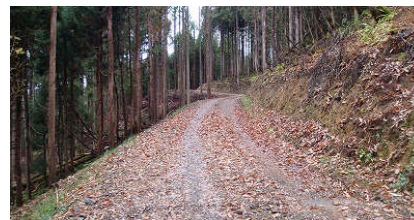
盛土施工方法(土羽尻)の
フォローアップ



自然地形を上手く活用した
ヘアピンカーブ



林内に残置された間伐材



地形条件と調和した
路網レイアウト



損傷が目立つ道際の立木

H21健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会
委員長 三島 喜八郎